

平成 30 年度 沼津市幼保小連携協議会 報告

○日 時：平成 31 年 2 月 19 日（火）14：30～

○場 所：市役所 水道部庁舎 3 階 大会議室

○出席者：木内 和彦（愛鷹小学校 校長） 妹尾 尋子（大岡小学校 教諭）
酒井 利絵（原東小学校 教諭） 保坂 賀世子（大平幼稚園 主任教諭）
岩本 美穂（光長寺幼稚園 教諭） 眞野 裕輝（原町幼稚園 教諭）
前山 明美（金岡保育所 副所長） 鈴木 敦子（浮島保育園 主任保育士）
後藤 信俊（認定こども園こずわ幼稚園 園長）

事務局：教育企画課、子育て支援課、学校教育課

○協議会の主な内容

①これまでの幼保小連携協議会について → 事務局が説明

②連携の現状及び県版モデルカリキュラムについて → 事務局が説明

③今後の連携についての意見（協議内容より）

- ・子ども同士の交流や接続に関する連携は着実に進んできている。協議会をきっかけに始まった取組も成果を上げている。根付かせていくためには協議会の回数を増やし内容を充実させるとよい。
- ・「おやこんぼ」「ノーデジタルメディアデー」「家庭読書の日」など、親子で過ごす時間や保護者と子どもが向き合う時間を作る取組が広がっている。
- ・小学校入学説明会の案内を幼保に出し、幼保職員の参加を促す取組は、この協議会から始まった。幼保としては学校が求めている子どもの姿を知る機会となり、園児への働きかけに生かすことができている。幼保職員が説明会に行くことができない学校については、資料だけでも幼保に送ってもらえるとありがたい。
- ・小学校の入学説明会の資料は、学校によって内容がまちまちである。一度集めて比較してみるのはどうだろうか。
- ・特別な支援が必要な子や育ちの問題を抱えている子、コミュニケーション力の低い子はますます増える。小学校の参観へ幼保職員の参加を促すことや、幼保小（中）の教職員が顔を合わせて研修をする機会を設けたらどうだろうか。
- ・小1担任と幼保の担当だけでなく、全職員で子どもの姿を通して研修する機会を設けるとよいが、現実的には時間等の都合から難しい。
- ・沼津市では小中一貫教育を全市的に進めているようだが、幼保小でも沼津市独自の連携カリキュラムができるとよい。
- ・沼津でどのような子を育てたいのかというビジョンがほしい。まずは校区で共通認識をもつことから始めてもよい。
- ・「幼児期の終わりまでに育ててほしい（10 の）姿」を生かすカリキュラム作りができるとよいが、現実的にはなかなか難しいのではないか。